

6. 働き盛りの者とその家族に対する がん検診受診行動促進への効果的な方法の検討

○久保木知子（旧所属 海匠健康福祉センター 現所属 香取健康福祉センター）
 鎗田 和美（旧所属 海匠健康福祉センター 現所属 山武健康福祉センター）
 戸村 美江 岩井 美春 石井 温子 木内千恵子（海匠健康福祉センター）

【目的】

当管内では、平均寿命が短く、働き盛りの者（30代～50代）のがんによる死亡が多いが、がんの予防対策である管内各市の各種がん検診は、40代50代の受診率が低い現状である。

当センターが設置している海匠地域職域連携推進協議会において、働き盛りの者のがん検診の受診率向上のための対策について検討し、平成22年度には地域保健と職域保健が連携して事業主に健康教育をおこなうなどの働きかけを実施することとなった。

そこで、地域保健と職域保健が連携してがん検診の受診率向上のための取り組みを行い、その結果を評価するとともに、事業主等に対しがん検診に対する意識調査を行うことで働き盛りの者とその家族に対するがん検診受診への効果的な働きかけの方法を探る。

【方法】

1. がん検診受診率向上のための健康教育の実施

各職域で実施する研修会や集会に参加し、保健所保健師・市保健師等により健康教育を実施する。

2. 働き盛りの人々をターゲットにした「がん検診受診勧奨チラシ」の作成と職域への配布の実施

チラシ作成チームを設置し、より効果的な内容となるように検討し、作成する。

3. 事業主等のがん検診に関する意識調査の実施

方法1で実施した健康教育後に、健康教育参加者（事業主・衛生管理者等）に事業所におけるがん検診の実施状況やがん検診に対する意識調査を実施する。

【結果】

1. がん検診受診率向上のための健康教育の実施

表1のとおり、職域と連携することで普段接する機会の少ない働き盛りの者への健康教育の機会を得る事ができた。参加者は、平均寿命が短くがん検診の受診率が低い管内の健康問題について知らない者が多く、驚きの声や今後はがん検診を自分だけでなく周りの人にも勧めるという声も聞かれた。漁業や農業の関係者からは、業務中は検診を受けに行くことができないなど、職種によるがん検診受診の困難さや必要な配慮を把握することができた。

表1 健康教育実施結果

実施日	研修名	対象者	参加者数	健康教育内容	従事者
H22.5.17	管内食生活改善推進協議会	食生活改善推進員	31人	海匝管内の健康問題とがん検診のすすめ	保健所保健師
H22.9.2・9.3・9.6	全国労働衛生週間説明会	事業主等	3回 計78人	海匝管内の健康問題とがん検診のすすめ	保健所保健師 市保健師
H22.9.3	管内農協女性部役員会	女性部役員	22人	海匝管内の健康問題とがん検診のすすめ	保健所保健師
H22.11.2	S市商工会女性部研修会	女性部メンバー	14人	女性の健康 がん検診のすすめ	医師 保健所保健師
H23.4.13	T商工会女性部総会	女性部役員	23人	海匝管内の健康問題とがん検診のすすめ	保健所保健師 市保健師
H23.6.14	農業経営体育成セミナー	セミナー生等	20人	自分自身の健康づくり	保健所保健師
H23.6.21	メンタルヘルス研修会	事業所管理者等	36人	健康づくりについて	保健所保健師
H23.7.6	事業所健康教育	A産業職員	38人	自分自身の健康とがん検診について	保健所保健師 市保健師
H23.9.8	管内食生活改善推進協議会	食生活改善推進員	49人	がん検診のすすめ	保健所保健師
H23.9.27	事業所健康教育	B醤油職員	20人	生活習慣病について がん検診のすすめ	医師・保健所保健師 市保健師
H23.10.5	管内食生活推進員研修会	食生活推進員	26人	食生活に活かすハーブ&スパイス(減塩) がん検診のすすめ	大学教授・栄養士(講師)・保健所栄養士・保健師

2. 働き盛りの人々をターゲットにした「がん検診受診勧奨チラシ」の作成と職域への配布の実施

よりよいチラシを作成するために、管内各市保健師と保健所保健師を構成員としたチラシ作成チームを設置。計5回の検討を重ねた。チームで検討し作成したチラシ案及び配布方法等については、海匝管内地域職域連携推進協議会作業部会及び協議会において更に検討し、行政だけでなく、職域の委員の意見を取り入れるようにした。

チラシは、働き盛りの者にターゲットを絞り、手に取ってもらえるようなメッセージと、検診を受けるメリットを伝える内容とするように工夫した。管内3市それぞれ検診実施状況が異なるため、チラシも市ごとに作成し(3種類)、自分の住む市の実施状況が詳しくわかるものとした。また、職場の掲示板に貼れるように、ポスターも作成した。

チラシ表面

旭市に住む
働き盛りのみなさまにご案内

がん検診を 受けましょう！！

「がんを怖れず・甘く見ず」

1. 日本人の2人に1人はがんになる
2. 働き盛りの死因1位は「がん」
3. 早期がんは約9割が完治

「時間が無い」「仕事が休めない」・・・
がん検診に費やす数時間が将来の明確を分ける

働き盛りの人が
がんで命を奪っています！

40・50代施設地区（錦州市・旭市・厩橋市）の死因別死亡割合
(H17～19年)

がん (悪性新生物) 30.4%

心疾患 18.2%

脳血管疾患 11.5%

その他 30.8%

がんの内訳: 胃がん 18.4%, 肺がん 58.5%, 大腸がん 12.8%, その他のがん 40.3%

平胃がん 4.5%, 平乳がん 7.5%

梅田地域健康推進協議会（事務局：梅田健康福祉センター（梅田保健所））0479-22-0300

作成したチラシは、職域（各市商工会・調理師会・漁協組合・労働基準監督等）の協力を得て、会員の事業所へ配布を依頼した（8か所・4500枚）また、栄養士会の協力を得て管内給食施設と、意識調査（方法3）を実施した事業所へは直接配布した（134事業所・4873枚）。チラシは郵送配布するだけでは見てもらえないのではないかとの作業部会での意見から、一部は事業所へ訪問し、管理者等へ趣旨を説明し配布依頼をおこなったが、配布実施時期（H23年3月）に東日本大震災が発生し、被災地支援活動が優先されたため、配布をいったん中止し、4月上旬に郵送した。

2. 事業主等へのがん検診に関する意識調査の実施

- (1) 実施日；全国労働安全研修会の健康教育後（平成22年9月2日、3日、6日）に実施
- (2) 調査対象者と回収結果；78人中69人回収（回収率88%）
- (3) 調査結果

①事業所の従業員数

30人未満19人（27.5%）、30人～100人未満28人（40.6%）、100人以上22人（31.9%）

②参加者の役職；事業主7人（10.1%）安全衛生担当者40人（60.0%）その他22人（31.9%）

③事業所の健康保険の種類（回答67）国保7（10.1%）、協会けんぽ23（33.3%）、組合37（53.6%）

裏面（市ごとに作成）

平成23年度 鏡子市がん検診のお知らせ 検診でがん検診を受ける機会がない方ぜひお申し込みください！！

検診の種類	対象年齢・性別 (※検診対象年齢は 55歳以上が対象となります)	検診方法	検診費用	検診実施期間 (※検診実施場所はセンター)	検診実施日
胃がん検診	40歳以上の男性	胃腸レントゲン検査 (バリウム検査)	900円	3,500円	4月14日(水)～22日(金) 23日(土)、24日(日)は検診 実施期間外です
大腸がん検診	40歳以上の男女	検便検査 (FIT検査)	300円	4月14日(水)～22日(金) 23日(土)、24日(日)は検診 実施期間外です	3月1日(火)
乳がん検診	40歳以上の女性 30～39歳の女性	乳房レントゲン検査 (マンモグラフィ検査)	700円	2,300円	5月14日(水)、16日(金)～18日(日)、 21日(水)、23日(金)～25日(日)、 28日(水)、30日(金) 検診実施期間
子宮がん検診	20歳以上の女性	子宮頸癌検査・検診	700円	1,800円	4月7日(水)～10日(土) 11日(日)、13日(火) 検診実施期間
肺がん検診 肺結核検診	40歳以上の男性	胸部レントゲン検査	300円	4月17日(水)～17日(水) 21日(日)、23日(火)、 24日(水)	4月1日(金)

初めて検診を受けるには・・・

検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。
※検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。
※検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。

鏡子市健康福祉センター 〒924-8507 鏡子市健康福祉センター
〒924-8507 鏡子市健康福祉センター
〒924-8507 鏡子市健康福祉センター

自己判断せずに、
検診を受けて
がんではないことを
確認しましょう！！

平成23年度 旭市 がん検診のお知らせ 検診でがん検診を受ける機会がない方ぜひお申し込みください！！

申し込み期間
平成23年3月1日(火)～3月22日(火)6日間

旭市健康推進課 健康福祉センター
〒929-2504 旭市 旭二2-2787-1
TEL 03-8706 Fax 04-1618

検診名	対象年齢・性別 (※検診対象年齢は 55歳以上が対象となります)	検診の内容	検診費用	検診実施期間・日	検診実施場所
胸部レントゲン検診	40歳以上	胸部レントゲン検査	300円	5月11日(水)～19日(月)	旭市健康福祉センター
胃がん検診	40歳以上の男性	胃腸レントゲン検査 (バリウム検査)	900円	5月11日(水)～19日(月)	旭市健康福祉センター
乳がん検診	40歳以上の女性 30～39歳の女性	乳房レントゲン検査 (マンモグラフィ検査)	700円	5月11日(水)～19日(月)	旭市健康福祉センター
子宮がん検診	20歳以上の女性	子宮頸癌検査・検診	700円	7月2日(水)～9日(火)	旭市健康福祉センター
肺がん検診	40歳以上の男性	胸部レントゲン検査	300円	6月1日(水)～9日(月)	旭市健康福祉センター
大腸がん検診	40歳以上の男女	検便検査 (FIT検査)	300円	6月1日(水)～9日(月)	旭市健康福祉センター

※検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。
※検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。
※検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。

旭市健康推進課 健康福祉センター
〒929-2504 旭市 旭二2-2787-1
TEL 03-8706 Fax 04-1618

自己判断せずに、
検診を受けて
がんではないことを
確認しましょう！！

「完全予約制」です。

平成23年度 厩橋市 がん検診のお知らせ

がん検診	対象年齢・性別 (※検診対象年齢は 55歳以上が対象となります)	検診の内容	検診費用	検診実施期間・日	検診実施場所
胃がん検診	40歳以上の男性	胃腸レントゲン検査 (バリウム検査)	900円	4月21日(水)～24日(土)	厩橋市健康福祉センター
乳がん検診	40歳以上の女性 30～39歳の女性	乳房レントゲン検査 (マンモグラフィ検査)	700円	7月8日(水)～9日(木)	厩橋市健康福祉センター
子宮がん検診	20歳以上の女性	子宮頸癌検査・検診	700円	11月22日(水)～26日(日)	厩橋市健康福祉センター
大腸がん検診	40歳以上の男女	検便検査 (FIT検査)	300円	11月22日(水)～26日(日)	厩橋市健康福祉センター
肺がん検診	40歳以上の男性	胸部レントゲン検査	300円	11月22日(水)～26日(日)	厩橋市健康福祉センター
子宮がん検診	20歳以上の女性	子宮頸癌検査・検診	700円	11月22日(水)～26日(日)	厩橋市健康福祉センター

初めてがん検診を受けるには・・・

検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。
※検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。
※検診実施期間中の検診を受けるには、検診実施期間中に検診を受ける必要があります。

厩橋市健康推進課 健康福祉センター
〒929-2504 旭市 旭二2-2787-1
TEL 03-8706 Fax 04-1618

自己判断せずに、
検診を受けて
がんではないことを
確認しましょう！！

「完全予約制」です。

保険の種類と職場でのがん検診の実施状況は表2のとおり。組合はがん検診実施率が高い。

④がん検診の職場での実施状況（回答 64）

職場でがん検診を実施しているのは37人（53.6%）であった。各がん検診の実施率は表3のとおり。胃がん検診が33人（47.8%）と実施率は高く、乳がんや子宮がん検診の実施率は低い。

表2 保険の種類と職場でのがん検診の実施状況

	事業 所数	実施	未実施	回答 なし	実施 率
国保	7	3	3	1	42.8%
協会けん ぽ	23	4	13	2	17.4%
組合	37	26	10	1	70.3%

表3 各がん検診の職場での実施状況

	単独実 施	保険者と 共同実施	合計	実施率
胃がん	11	22	33	47.8%
肺がん	9	18	27	39.1%
大腸がん	9	19	28	40.6%
乳がん	1	13	14	20.3%
子宮がん	1	14	15	21.7%

⑤自分自身は、昨年がん検診をうけたか（回答 68）

受診した39人（56.5%）、未受診は29人（42.0%）。職場でがん検診を実施していると答えた37人中がん検診を受診した者は29人（78.4%）、未実施と回答した27人中がん検診を受診した者は8人（29.6%）であった。

⑥がん検診未受診の理由（複数回答・項目選択制）

「どこでうけるかわからなかった」が8人と一番多かった。次に「勤務時間中にはいけないから」6人、「心配なときは医療機関を受診できるから」6人、「面倒だから」4人等であった。

⑦がん予防の取り組みの必要性を感じているか（回答 68）

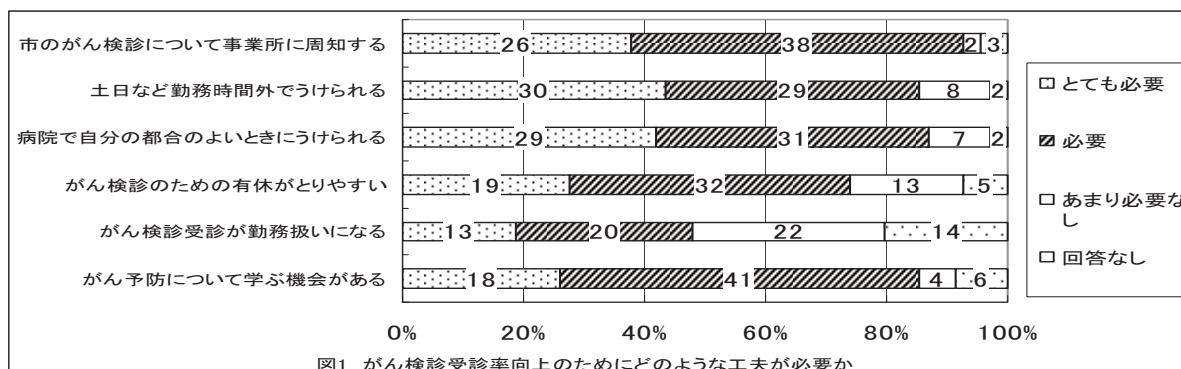
とても感じている25人（36.2%）、感じている39人（56.5%）、あまり感じていない4人（5.8%）であり、健康教育後の意識調査だったためか、必要と感じている人が多かった。

⑧職場で実施していない場合、従業員が市のがん検診を受診できることを知っていたか（回答 67）

知っていたが29人（42.0%）知らなかったが38人（55.1%）であった。

⑨市のがん検診受診率向上のために、どのような工夫が必要と思うか

図1のとおり。市のがん検診を事業所へ周知すること、がん予防について学ぶ機会があるが必要と答えた者が多かった。



【考察】

1. 働き盛りの者やその家族への市で実施するがん検診周知の必要性

当管内では小規模事業所も多く、調査の結果でも職場でがん検診を実施していない事業所が 27 人 (39.1%) あった。その中でも乳がん・子宮がん検診の実施率は 2 割程度であり、事業所に勤務している者にも市のがん検診受診対象者が多くいることが把握できた。

しかし、市のがん検診を受診できることを知らなかったと回答する者は 38 人 (55.1%) であり、がん検診未受診理由にも「どこで受ければいいかわからなかった」という回答が一番多かったことから、現在市で実施しているがん検診の周知（広報掲載等）だけでなく、事業所に勤務している人とその家族に向けた周知が必要であることがわかった。

2. 効果的なチラシづくりと配布方法

今回のがん検診受診勧奨チラシにおいては、「働き盛りの皆さまへ」という言葉で対象を明確に示し、「時間がない、仕事が休めない…がん検診に費やす数時間が将来の明暗をわける」という働き盛りの人へのメッセージを加えて、若い年代ががんで死亡しているという統計数値も加えた内容とした。また、チラシをみればどこに相談すればよいか明確にわかるように工夫した。チラシは、手に取り、見てもらえることが重要であり、配布する対象者の特徴をつかみ、メッセージを明確に伝えることが重要であると考えます。

また、配布方法についても、事業所に郵送しただけでは意図が伝わらない可能性もあるので、事業所に出向き事業主等に説明し理解を得て、配布依頼することが重要である。

3. 職域保健でのがん検診実施への働きかけ

職場でがん検診を実施している場合のがん検診受診率は 7 割以上、未実施の場合は 3 割以下であった。勤務中に市のがん検診を受けることは容易ではなく、職場でのがん検診の実施が働き盛りの者のがん検診受診をすすめていくためには重要であることがわかった。今後は、事業所でのがん検診実施や、実施できない場合は市のがん検診をうけられる職場環境づくりのため、事業主へがん検診の重要性を伝える働きかけが必要である。

4. 職域保健との連携の有効性と今後の課題

今回、職域保健と連携したことにより、農協・漁協・商工会・各事業所等様々な部署での衛生教育を実施することができた。今後も職域保健との連携を強め、ともに地域の健康づくりについて考える実施体制をつくっていきたい。

また、今回の取り組みの効果を評価することも重要であり、実際のがん検診受診率向上に効果があったのか、事業所への聴き取りなど、今後検討していくことが必要である。

【経費使途明細】

印刷費（チラシ 14000 部・ポスター 1500 部作成）	136,692 円
（アンケート・健康教育資料等）	5,800 円
パンフレット購入費（健康教育時使用）	10,416 円
通信運搬費（チラシ等送付切手代）	42,110 円
報償費（健康教育講師 30,000 円 1 名・20,000 円 1 名・5,000 円 2 名）	60,000 円
アンケート調査集計作業費（6800 円×3 日×1 名）	20,400 円
消耗品費（紙・文具等）	24,582 円
合 計	300,000 円